

# ETC利用の促進について

道路行政においては、高速道路の料金所における渋滞緩和、解消を図ること等を目的として、ETC利用の促進を図っています。

ETC利用の現状

ETC利用率(料金所におけるETC利用車の割合)は、平成十六年九月末現在全国平均で二十一・二%です(平成十六年十一月九日現在の速報では二十一・二%まで増加しています)。地域別にみると、関東・東海地区が高く、九州・東北地区が低く、沖縄は全國最下位です。



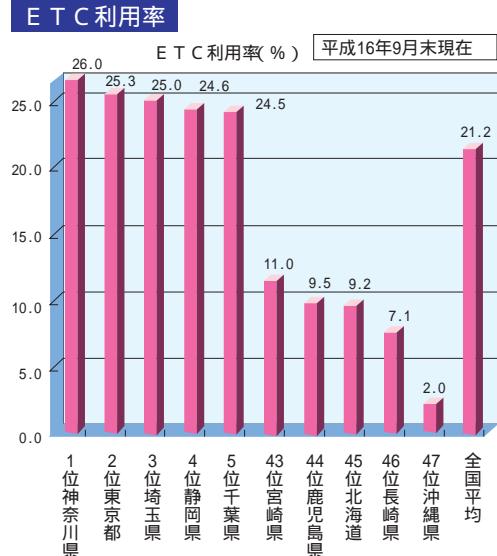
### ETC の利用状況（西原 IC）

平成十六年度の目標

沖縄においては、平成十六年度道路行政の業績計画書において、平成十六年度のETC利用率（目標値）を、平成十五年度全国平均値である十六%にしています。平成十六年九月末現在二一・〇%と厳しい状況ではありますが、新しい料金割引制度のPRを図り目標達成を目指しております。

スマート工場の導入

今後、E-T-Cの普及が進めば、建設・管理コストの削減が可能なスマートE-T-C(インター・チェンジ)の導入が可能になります。これにより、E-T-Cを倍増し、利便性の向上、既存E-T-C周辺の渋滞緩和等が図られます。



ETC利用車に新しい  
料金割引制度が登場

日本道路公団では、高速道路をETCで走行する車両を対象に、新しい料金割引制度をスタートさせています。基本となる割引は、利用実績に応じた割引(二種類)と利用時間帯に応じた割引(三種類)。沖縄では二種類が利用可能)です。利用時間帯に応じた割引と利用実績に応じた割引を重複適用させることも可能です。また、各料金割引制度には、料金還元の特典(台数限定)もあります。